**校　長　大峠　貴弘**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **明るく、強く、きよらかに、生き抜く力を培う学校**  **１　安全・安心して児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、「本物」と触れ合おうとする学校　→触育**  **２　教職員の役割と責任を明確にして、「高い専門性を有するプロ」をめざそうとする学校　→職育**  **３　例年通りから脱却し風通しの良さをめざし、「次世代育成の種」を植えようとする学校　→植育**  **４　共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校　→自育** |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| **１　安全・安心して児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、「本物」と触れ合おうとする学校　→触育**  （１）　環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、**子どもファーストの充実**体制づくりに取組む。  　ア　「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCAｻｲｸﾙを活用した、授業改善実践に取組む。  イ　「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの確立)に取組む。  ウ　「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ･文化・言語活動の推進)に取組む。  エ　「教育環境」(ICT関連含:ﾀﾌﾞﾚｯﾄ､楽スタ(重力軽減訓練装置)､ﾛｺﾓｰﾀｰ(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取組む。  オ　「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取組む。  **２　教職員の役割と責任を明確にして、「高い専門性を有するプロ」をめざそうとする学校　→職育**  （１）　個人主義ではなく、学校として一丸となった**チーム学校の促進**をすすめ、専門性向上に取組む。  ア　学校運営にかかわる会議を一層スリム化する。ＩＣＴを活用した校務の効率化・円滑化についても取組む。  イ　業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に一層取組む。  ウ　新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。  エ　全教員が学び続ける教員として外部講師も招き、「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取組む。  **３　例年通りから脱却し風通しの良さをめざし、「次世代育成の種」を植えようとする学校　→植育**   1. 指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(**メンター・メンティの関係づくりの深化**)に取組む。   　ア　首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・服務の適正維持に取組む。  イ　茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続に取組む。  ウ　ＰＴＡや関係機関等と連携し、防災マニュアル（大災害時も含む）の見直しとライフライン断絶(下校困難)時の訓練に取組む。  **４　共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校　→自育**  （１）　関係部署による校内体制の連携を図り**センター的機能の拡充**を行い、地域や各校種の学校に積極的な支援と連携を行う。  ア　50周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール等に積極的応募し、その広報の充実を行う。  イ　「学校における医療的ケア実施体制構築事業」(国の委託)を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。  ウ　最新で適切な情報源としてのHP・ﾌﾞﾛｸﾞの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的・継続的に行う。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成31年11月実施(予定)分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　安全・安心して児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、  「本物」と触れ合おうとする学校**触育** | （１）環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、**子どもファーストの充実**体制づくりに取組む。    ア　「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCAｻｲｸﾙを活用した、授業改善実践に取組む。  イ　「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの確立)に取組む。  ウ　「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ･文化・言語活動の推進)に取組む。  エ　「教育環境」(ICT関連含:ﾀﾌﾞﾚｯﾄ､楽スタ(重力軽減訓練装置)､ﾛｺﾓｰﾀｰ(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取組む。  オ　「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取組む。 | （１）特に研究部・健康安全部・教務部・自立活動支援部・進路指導部・児童生徒部・通学部・行事部や、ｱﾚﾙｷﾞｰ/医ｹｱ/給食委員会等が中心に各項目の実践を行う。  ア実践に応用できる授業研究をめざし、研究授業を継続する。又重度障がいのある生徒への対応や、姿勢・運動・摂食・コミュニケーション等の専門性を向上させるため、全校年間研究テーマの設定に取組む。外部研修への参加等を通し自己研鑽する。学校全体の行事について、新学習指導要領を見据え、検討を深める。  イよりきめ細かい指導に活用できるよう、個別の指導計画、個別の  教育支援計画の見直しを通知表と連動し、**｢指導と評価の一体化｣**  **をめざす。**  ウ外部専門研究機関等と連携しながら楽スタ、タブレット型PC の  更なる活用に取組む。ボッチャをはじめ、新ｽﾎﾟｰﾂ等の取組みを  充実、**更に文化(ｱｰﾄ)を取り入れた外国語(国際理解)･言語(読書)の活動の**  **充実**、又、自作教材(ロコモーター(電動移動支援教具))の充実を図る。  エ不用意・不注意な事故を防止するための意識向上のための行動計画を作成する。  オ校外での見学・実習回数を増やし、社会性、就労意識の向上を図る。  清掃･喫茶サービス等の技能や意欲の向上を図る。外部講師を招き  「社会に出たときのマナーや心構えについて」の講義を実施する。 | ア授業改善の学校教育自己診断による評価肯定率  **85**％以上(**H30 83.3%**)  イ個別の教育支援計画の様式や記入文章の改善肯定率  **70**％以上(**H30 65.5%**)  ウ新たな取組み(教育環境充実)の成果について学校診断評価肯定率**70**％以上(**H30 63.3%**)  エ不注意な事故の発生ゼロをめざす。スキルアップのための新たな取組みの継続と学校教育自己診断による肯定率維持**100**％(**H30　91.4%**)  オ就労希望生徒の就労**100**%継続  　校外見学・外部講師招聘回数10％増 |  |
| ２　教職員の役割と責任を明確にして「高い専門性  を有するプロ」をめざそうとする学校**職育** | （１）個人主義ではなく、学校として一丸となった**チーム学校の促進**をすすめ、専門性向上に取組む。  ア　学校運営にかかわる会議を一層スリム化する。ＩＣＴを活用した校務の効率化・円滑化についても取組む。  イ　業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に取組む。  ウ　新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。  エ　全教員が学び続ける教員として外部講師も招き、「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取組む。 | （１）特に進路指導部・研究部・行事部をはじめ、各種委員会等が  学校の総力を挙げて、各項目の実践を行う。  ア会議の効率化/ICT**(情報ﾓﾗﾙ・ﾘﾃﾗｼｰを含む)**を活用した校務の円滑化  の試行実施､会議の持ち方の共通ルールの実施に取組む。  イ業務の見える化をさらに進めマニュアルの作成や様式の改善、電子データの活用に取組む。  ウ引継ぎ資料の工夫により指導支援の根拠や理由、きめ細かな配慮事項を各自に伝達できるようにして全体の専門性向上を図る。  エキャリア教育に関するワークショップ形式など教員が、主体的に参加し学ぶ喜びを実感できるような研修を工夫する。 | ア校務の円滑化を進めることで、子どもと向き合う時間の確保肯定比率**75**％以上（**H30　70.5％**）  イわかりやすい業務分担表やﾏﾆｭｱﾙ整備肯定比率**40**％（**H30　37･1％**）  ウ校内研修の充実の肯定比率**60**％以上（**H30　58.3％**）  エ研究授業･協議数**10**％増  **（H30　全校研修17回）** |  |
| ３　例年通りから脱却し風通しの良さをめざし、  「次世代育成の種」を植えようとする学校**植育** | （１）指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(**メンター・メンティの関係づくりの深化**)に取組む。  ア　首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・服務の適正維持に取組む。  イ　茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続や、管理職通信とブログによる共有化の継続に取組む。  ウ　ＰＴＡや関係機関等と連携し、防災マニュアル（大災害時も含む）の継続的な見直しとライフライン断絶(下校困難)時の研修、訓練に取組む。 | （１）特に事務・教頭・首席・指導教諭や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。  ア服務管理:通勤/研修/勤務の適正化  　　年に最低１回以上の抜き打ちチェックの継続実施  イ人事配置:首席/指導教諭の適材適所活用  　　・茨木初任自主研修(9/24･12/17予定)及び毎週定期的な  学習会の円滑実施･管理職通信とブログによる共有化促進  ・**長時間勤務の縮減と会計事務の適正化**  ウ地域・ＰＴＡとも連携して震度７以上の大規模災害を想定し、減災に向け備えを充実する。備蓄品の点検と使用体験等を行い、防災意識の向上の取組みを進める。  通学バスの新避難マニュアル、マップを作成する。  校内花一杯活動を推進する。 | ア服務管理:通勤/研修/勤務の  適正化　(１回以上)実施  イ人事配置:首席/指導教諭の  適材適所活用  ・自主合同研(年２回)等、  ・学習会･通信(ブログ)実践  ・**有休消化率10%増**  **・財務規律に基づく適正執行**  ウ防災意識について学校教育  自己診断による肯定率  **70**％以上（**H30　66.2%**）  **四季を通じて校内に花を植え、**  **「花一杯」活動を実践** |  |
| ４　共生社会の形成に向け、  保護者・地域から信頼  され期待される学校**自育** | （１）　関係部署による校内体制の連携を図り**センター的機能の拡充**を行い、地域や各校種の学校に対し積極的な支援と連携を行う。  ア　50周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール等に積極的応募し、その広報の充実を行う。  イ　高度医療の国(委託)事業を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。  ウ　最新で適切な情報源としてのHP・ﾌﾞﾛｸﾞの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的・継続的に行う。 | （１）特に情報部・総務部や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。  ア創立50周年(H31/9/28)の具体化と広報に取組む。ホームページを一層見やすいデザインに改良する。  イ学び続ける教員に必要な研修を継続し、ポートフォリオの導入、効果測定などを導入して効果的で効率的な研修に改善し、高度医療の校内体制の整備と充実に努める。  ウ学校紹介パンフレット（カラー版）とともに、地域に根差し、先進的取組みを積極的・継続的に発信する。 | ア50周年→実施→無事終了  外部ｺﾝｸｰﾙや検定等への参加件数  **12**件以上  イ高度医療探究体制づくりの充実  　完成年度としてまとめ作成  ウ・ HPﾌﾞﾛｸﾞ･ｺﾒﾝﾄの更新件数**10**%増  (更新数H30約**300**回) |  |